

「神様の力で」 ～天命は神様の方法で～

マタイ16：19、18：19～20

「人事を尽くして天命を待つ」（精一杯努力してあとの結果は神様に任せよう）「天は助くる者を助く」（真剣に努力するものは神様が助けてくれる）これらは一見正しいことのように思えますが、実はいいことではありません。聖書には「自らを助けよ」なんてことは書いてありません。このように私たちは「いい言葉」と「正しい言葉」の狭間に生きているのです。あなたはいつも神様の正しいことばに聞き従って行動しているでしょうか。「天命」とは何でしょうか。天(神)の命令のことです。(マル12：28～34)天命を知っている人はどんな誘惑があろうとも正しい判断ができます。イエス様は天命を持っていたのでどんなときも天命を基に神のみこころを聞きました。神が言っているのか人が言っているのか悩むことがあると思いますが、そういう時はあなたの天命にあっているかどうかなのです。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」(29～31)最大の天命は「愛」です。愛に基づいているということです。(マル16：15～)あなたの隣にいる人、得意でない人、害を与える人、その人を神様は愛しています。そのことをあなたが知っているかどうかです。しかし私たちはそこに憎しみがあるので神の命令を無視し、えこひいきしてしまうのです。愛することとその愛に基づいて滅びる魂を救いに導く、それ以外の命令はありません。あなたはそのためにも救われたからです。あなたはその愛を知っていて、その証人としてその人が愛されたことを伝えることが目的ですが、私たちは信じようと伝えてしまうので相手がすぐに信じないと腹を立ててしまいます。目的が違うのです。伝えることが目的なので相手が信じる、信じないは本来関係ありません。でも信じてもらいたい、だから「天命を待って人事を尽くす」なのです。私たちは自分ができると思いたいので「やれることはやったあとは神頼み」となります。これはラクですが、神様不在です。イエス様の姿勢は違います(ヨハネ5：30～33)「わたしは自分からは何事も行うことができません」(30)イエス様がこう言っているのです。神様からの力をもらっていなくては何事もできません。その天命が子孫を増やすということです。私たちの現実は何もできないということです。私たちは一人では何もできません。私たちの成功は「努力」だけではないのです。80%は人間関係(人々の助け)です。その人々を作ったのが神様です。あなたの危機のときに隣にいる人は偶然にいるわけではありません。あなたを支えるためにいるのです。「この息子は、死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかったのだから。」(ルカ15：24)私たちが神様のところに帰るとき、神様はこのみことばを持って迎えてくれます。自分が放蕩息子だと気付けた者はよいのですが、クリスチャンとして生きる中で最後まで自分が放蕩息子だと気付かずにご過ごす人もたくさんいます。「神様のことも知っている、神様が自分に願っていることも知っている、でも自分は自分の方法でやる。これで努力していればきっと神様がうまくいかせてくれる」なんてことはありません。神様がせよと言った方法を真剣にやったものがその栄光を見ることができなのです。自分のためにやったことは決して自分に返ってきませんが、自分を犠牲にして相手のために努力している人を、人々は見放すことはできません。人々に伝えるときに大切なのは、本当に神様の思い(神様がその人のことを愛しているという思い)でやるかどうかです。あなたが愛している神様がその人を愛しているから伝えるのです。「天命を待って人事を尽くす」「天は神を願い助けあう者を助ける」なのです。天命を全うするために①無力を知るという力。自分ひとりでは何もできないということを知ってください。無力であるということを受け取ってください。まだ私たちは自分の力でやろうとしますが、それでは伝道は絶対にうまくいきません。本当に神様がどういう気持ちでその人を待っているか、その人がどうして受け取れないのか、その人の身になって考えなくてははいけません。無力を得ると初めて力を得ます。どん底まで落ちて知る、これではダメなのです。無力だと知っていればなんでも神様に聞けます。「やらなきゃいけないから」「こういう風に伝えたら聞く」これでは絶対救えません。人の心は私たちにはわかりません。だから神の方法でやらなくてははいけません。②心に頼らず言葉を整える。(箴18：1～8、26：25～27)「おのれを閉ざす者は自分の欲望のままに求め、すべてのすぐれた知性と仲たがいます。」(1)自分は自分、人は人と分離する人のことです。これは目的のない人がこうしがちです。周りの人が自分の目的を達成するために必要とわかっていけば大切にすることはせず。愛がないから正しいと思って聞けないのです。でもそれは愚かなことです。「悪者が来ると、侮りも来る。恥とともに、そしりも来る。」(3)侮りとは心のねじれた人のことです。あなたは心がねじれていませんか。心のねじれた人からは話を聞けません。自分の考えに頼っていると愚かになります。自分の考えに頼るのはいけないとわかっているはず。素直に心を整え、無力だとわかってください。③キリストの十字架を忘れるな。キリストの十字架を覚えていますか。イエス様が自分で十字架を降りなかったのは、私たちのためです。あなたが「嫌だな」「あの人は救われない」と思っている人のために、そしてその人たちを救いに導くために十字架にかかったのです。あなたの救いに導く人をあなたがあきらめたらその人たちは滅びてしまいます。あなたが戦の道を選んだのなら勝利を得るまでしなくてははいけません。私たちは枝です。結ばれている幹や、大地を無視して何かをしようとしても無理です。イエス様自身が「私には何もできない」と言ったのです。自分の力に頼らず神様に頼って十字架の意味を刻んでください。十字架の意味がわかれば全ての人を愛せるはず。実を結んでください。神、罪、救いのことをいつも思い歩んでいきましょう。(要約者：岩崎祥誉)